

2024年11月29日 全7頁

Indicators Update

2024年10月鉱工業生産

半導体製造装置が大幅増産、自動車の挽回生産も継続

経済調査部 エコノミスト 石川 清香

[要約]

- 2024年10月の生産指数は前月比+3.0%と、コンセンサス（同+4.0%、Bloomberg調査）には届かなかったが、2カ月連続で上昇した。輸出向けを中心に半導体製造装置等の需要が旺盛だったほか、自動車の挽回生産も継続した。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。
- 先行きの生産指数は、横ばい圏で推移するとみている。2024年内は自動車の挽回生産が下支えするほか、シリコンサイクルの回復を背景とした半導体関連財の増産は当面の押し上げ要因だ。ただし、中国で半導体製造装置需要が一服したり、日本からの輸出管理規制が強化されたりすれば、日本国内の生産が下振れする可能性がある。また、米国での緩やかな景気減速を背景に輸出が伸び悩み、日本の生産の下押し要因となる可能性にも注意が必要だ。
- 2024年12月6日に公表予定の10月分の景気動向指数は先行CIが前月差▲0.3ptの108.8、一致CIが同+2.5ptの117.8と予想する。この予測値に基づくと、10月の基調判断は機械的に「下げ止まり」に据え置かれる。

図表1：鉱工業指数の概況（季節調整済み前月比、%）

	2024年									
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
鉱工業生産	+4.4	▲0.9	+3.6	▲4.2	+3.1	▲3.3	+1.6	+3.0		
コンセンサス								+4.0		
DIR予想								+4.0		
生産予測調査									▲2.2	▲0.5
補正值(最頻値)									▲4.1	
出荷	+4.7	▲0.4	+3.9	▲4.7	+2.7	▲4.1	+2.4	+2.8		
在庫	+1.0	▲0.2	+0.9	▲0.7	+0.4	▲0.8	+0.1	▲0.1		
在庫率	+7.6	▲0.7	▲1.2	+1.7	▲2.4	+5.3	▲3.8	▲1.4		

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

【生産】半導体製造装置が大幅増産となったほか、自動車の挽回生産も継続

2024年10月の生産指数は前月比+3.0%と、コンセンサス（同+4.0%、Bloomberg調査）には届かなかったが、2カ月連続で上昇した。輸出向けを中心に半導体製造装置等の需要が旺盛だったほか、自動車の挽回生産も継続した。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。

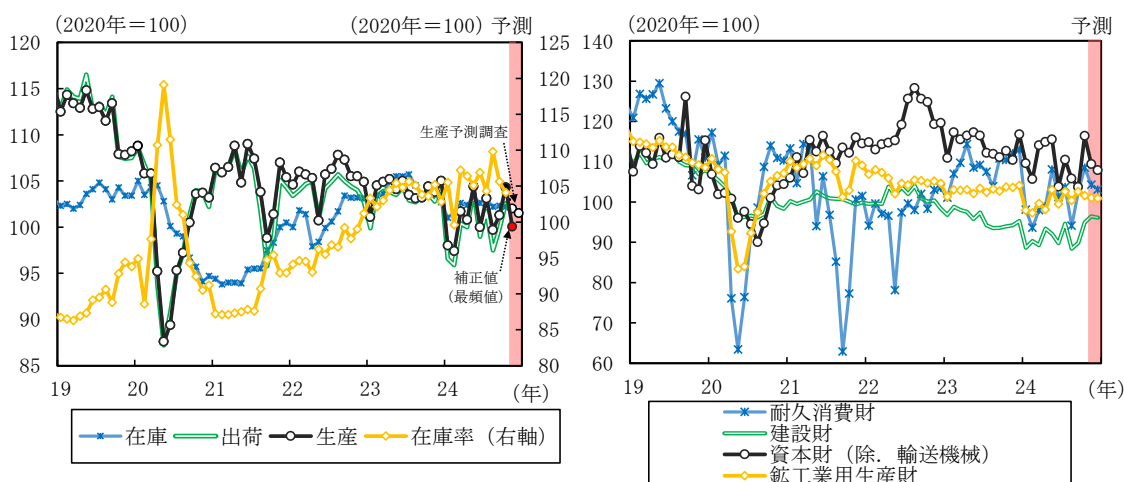
生産指数を業種別に見ると、15業種中11業種が前月から上昇した。生産用機械工業（前月比+21.7%）では、半導体製造装置（同+67.2%）やフラットパネル・ディスプレイ製造装置（同+94.2%）などが増産となった。経済産業省「鉱工業出荷内訳表」を見ると、輸出向けの生産用機械工業が増加しており、中国向けを中心に半導体製造装置等の需要が旺盛だったとみられる。自動車工業（同+6.4%）では、普通乗用車（同+9.0%）や駆動伝導・操縦装置部品（同+5.6%）などが増産となった。認証不正問題や台風の影響が一服したことで生産体制が正常化し、挽回生産が進展した。トヨタ自動車は9月4日より認証不正の影響で生産停止していた3車種の生産を再開した¹。3車種について、9月の新車登録台数は前年同月の6割程度の水準だったが、10月は前年並みまで回復した。他方で、電子部品・デバイス工業（同▲8.5%）では、モス型IC（メモリ）（同▲17.8%）が減産となった。

財別では、資本財（除. 輸送機械）（前月比+12.2%）、耐久消費財（同+5.9%）、建設財（同+5.6%）が上昇した一方で、生産財（同▲0.9%）、非耐久消費財（同▲0.6%）は低下した。

【出荷・在庫】出荷指数は2カ月連続で上昇

10月の出荷指数は前月比+2.8%と2カ月連続で上昇した。業種別では、15業種中9業種が上昇した。生産用機械工業（同+25.3%）では半導体製造装置やフラットパネル・ディスプレイ製造装置の出荷が増加したほか、自動車工業（同+5.7%）では普通乗用車などの出荷が増加した。財別では、資本財（除. 輸送機械）、非耐久消費財、耐久消費財、建設財が上昇した一方で、生産財は低下した。在庫指数は同▲0.1%、在庫率指数は同▲1.4%となった。

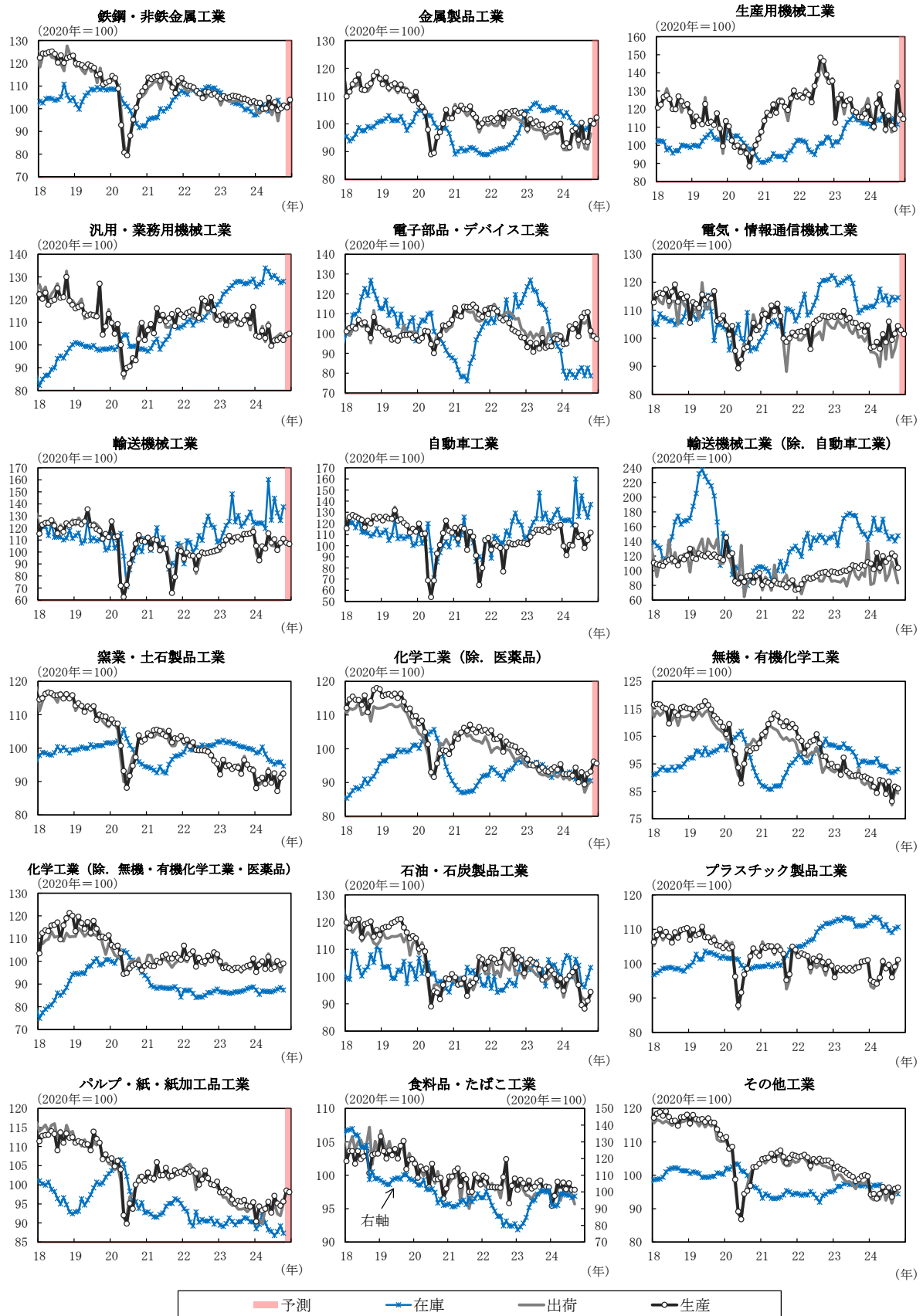
図表2：鉱工業の生産・出荷・在庫（左）と財別の生産（右）



(注) 生産指数の予測値（赤色）は、製造工業生産予測指数の補正值。その他シャドー部分の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

¹ 日本経済新聞「[トヨタ不正3車種、4日夜に生産再開 ヤリスクロスなど](#)」（2024年9月5日）

図表3：業種別 生産・出荷・在庫の推移



(注1) 生産指数の予測値は、製造工業生産予測調査。化学工業（除. 医薬品）の予測数値は、化学工業全体の予測数値を使用。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

【先行き】生産指数は横ばい圏で推移か

先行きの生産指数は、横ばい圏で推移するとみている。2024 年内は自動車の挽回生産が下支えするほか、シリコンサイクル（世界半導体市場に見られる循環）の回復を背景とした半導体関連財の増産は当面の押し上げ要因だ。ただし、中国で半導体製造装置需要が一服したり、日本からの輸出管理規制が強化されたりすれば、日本国内の生産が下振れする可能性がある。また、米国では、引き締めの金融環境の継続などを背景に緩やかに景気が減速する中で日本からの輸出が伸びづらい状況にあり²、生産指数の下押し要因となる可能性にも注意が必要だ。

自動車の生産体制が正常化し受注が再開される中、挽回生産の進展が生産指数を一定程度押し上げるだろう。ただし、自動車のペントアップ（繰越）需要の消化が進んでおり、挽回生産は2024 年内を目途に一服すると見込まれる。また、トヨタ自動車は11月7日から11日にかけて、設備の確認作業のため国内2工場の稼働を停止したため³、生産指数が一定程度下押しされる可能性がある。

シリコンサイクルの回復は、当面は生産指数の押し上げ要因だ。9月の世界半導体販売額（3カ月平均）は前年比+23.2%と、米国が全体をけん引し11カ月連続で前年比プラスとなった⁴。日本における販売額も、2カ月連続で前年比プラスとなるなど増加基調にある。また、日本半導体製造装置協会によれば、10月の半導体製造装置販売高（3カ月平均）は同+33.4%と10カ月連続で増加した⁵。ただし、中国は米国等による輸出管理規制を警戒して前倒しで半導体製造装置を購入しているとみられ、将来的にはその反動で需要が減少する可能性が高い。今後、米国が対中半導体規制を強化すれば、日本からの輸出規制も強化される可能性もあり、注視が必要だ。

製造工業生産予測調査によると、2024年11月の生産指数は前月比▲2.2%（生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）⁶は同▲4.1%）と見込まれている。業種別では11業種中6業種が低下する見込みだ。生産用機械工業（同▲11.8%）で半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置の減産が見込まれるほか、輸送機械工業（同▲3.0%）も低下が見込まれている。

12月の生産は前月比▲0.5%となる見込みだ。業種別では、11業種中8業種が低下するとみられている。生産用機械工業（同▲2.1%）や輸送機械工業（同▲1.0%）などが低下する見通しだ。

² 詳細は、岸川和馬・秋元虹輝「[2024年10月貿易統計](#)」（大和総研レポート、2024年11月20日）を参照。

³ 日本経済新聞「[トヨタ、愛知2工場を12日稼働再開 ランクルなどに影響](#)」（2024年11月11日）

⁴ World Semiconductor Trade Statistics “[Historical Billings Report](#)”（2024年11月5日）

⁵ 日本半導体製造装置協会「[2024年10月度販売高（SEAJ速報値）日本製半導体製造装置（3ヶ月平均）](#)」（2024年11月26日）

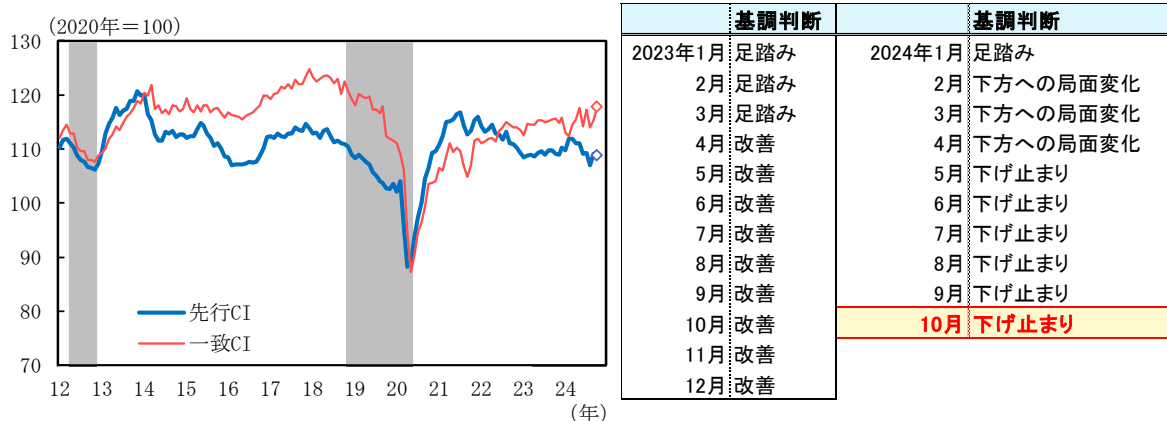
⁶ 生産計画は生産実績よりも上振れした値となることが多いため、生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）が公表されている。

【10月景気動向指数】先行CIは低下、一致CIは上昇の見込み

鉱工業指数の結果を受け、2024年12月6日に公表予定の10月分の景気動向指数は先行CIが前月差▲0.3ptの108.8、一致CIが同+2.5ptの117.8と予想する（図表4）。先行CIでは構成指標のうち、消費者態度指数や鉱工業用生産財在庫率指数（逆サイクル）、新規求人数（除学卒）などが悪化した。また一致CIでは構成指標のうち、投資財出荷指数（除輸送機械）や生産指数（鉱工業）、商業販売額（卸売業、前年同月比）などが改善した。この予測値に基づくと、10月の基調判断は機械的に「下げ止まり」に据え置かれる。

先行きの経済は緩やかな改善基調が続くと見ている。2024年7-9月期の実質GDP（1次速報値）は、前期比年率+0.9%と2四半期連続のプラス成長だった。台風による一部工場の稼働停止や巨大地震への警戒などが経済活動を下押ししたものの、家計の所得環境の改善などを背景に個人消費が比較的高い伸びとなり、実質GDPを押し上げた。10-12月期は、民需の回復などにより3四半期連続のプラス成長を見込んでいる。

図表4：景気動向指数（先行CI、一致CI）と基調判断の推移

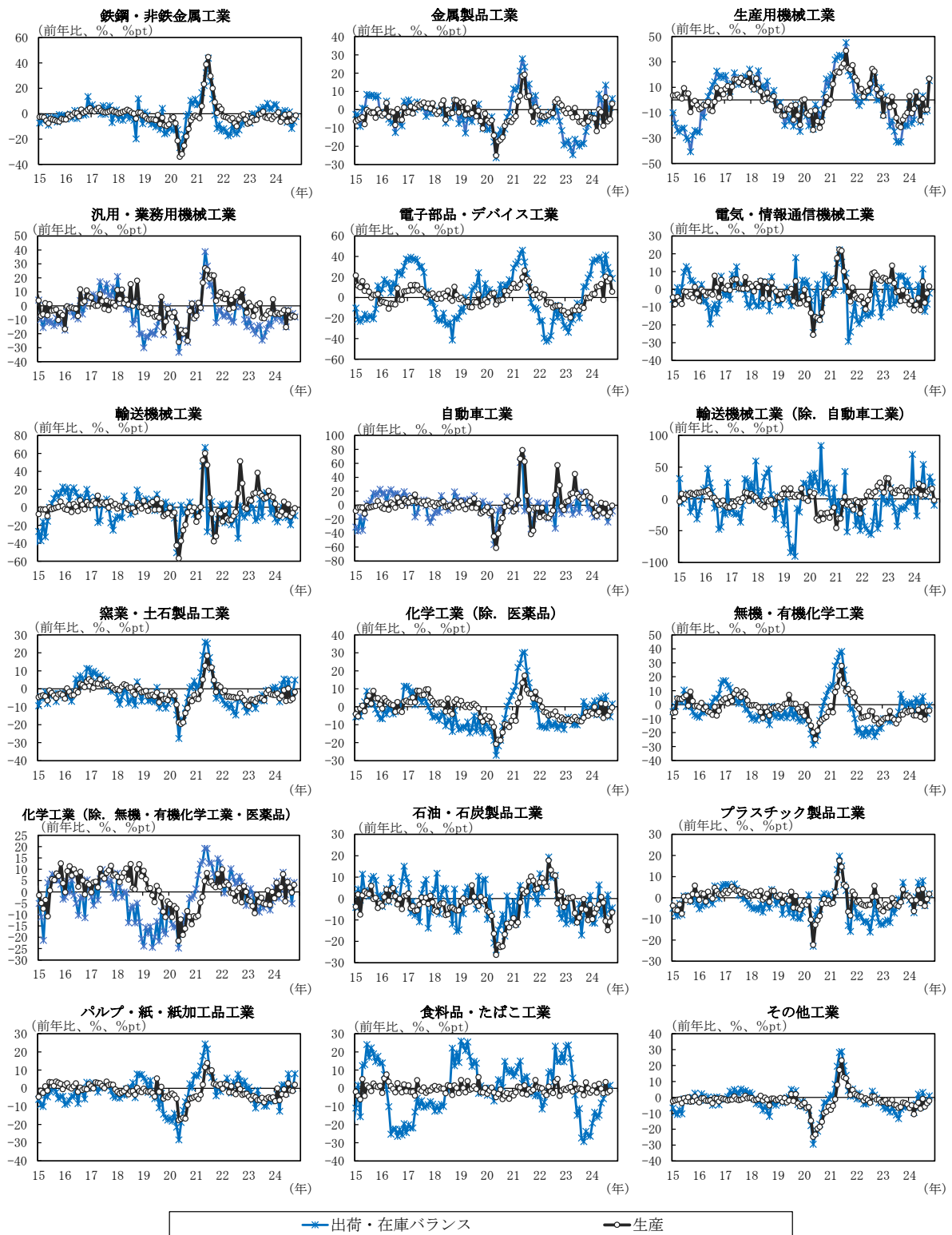


（注）左図の直近は大和総研による予測値。シャドローは景気後退期。

右図の2023年4月以前の基調判断は2015年基準による。2024年10月は大和総研予想。

（出所）内閣府統計より大和総研作成

業種別 出荷・在庫バランスと生産



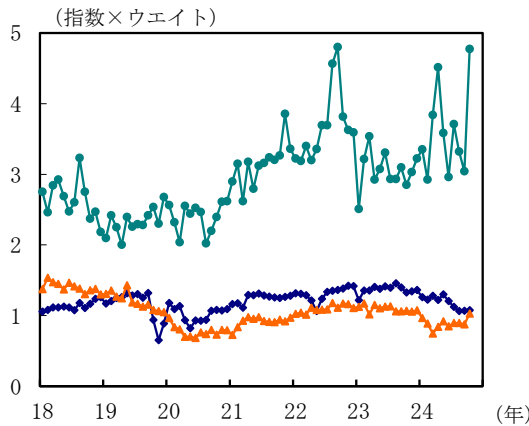
(注1) 出荷・在庫バランス＝出荷前年比－在庫前年比。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

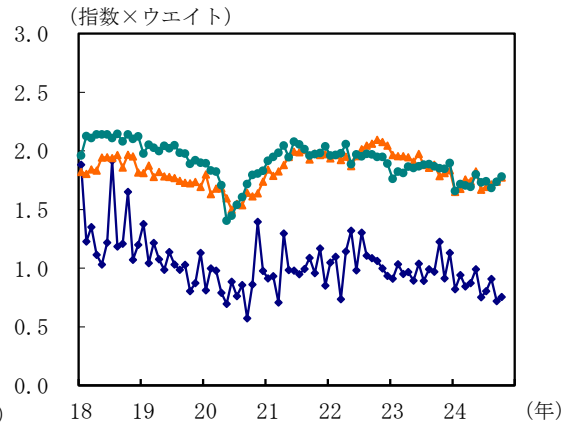
主要産業の生産動向(季節調整値)

生産用機械



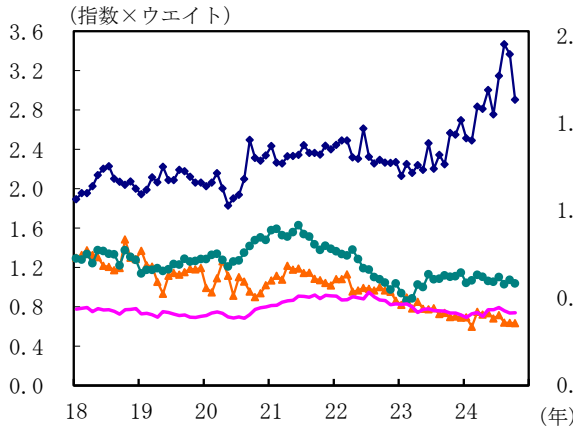
- 建設・鉱山機械
- 金属加工機械
- 半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置

汎用・業務用機械



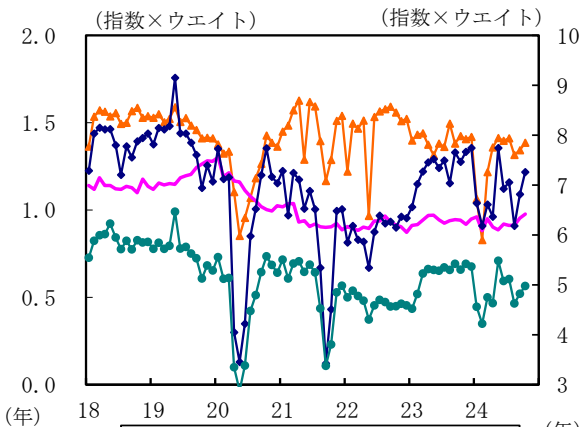
- ボイラ・原動機
- ポンプ・圧縮機器
- 汎用機械器具部品

電子部品・デバイス



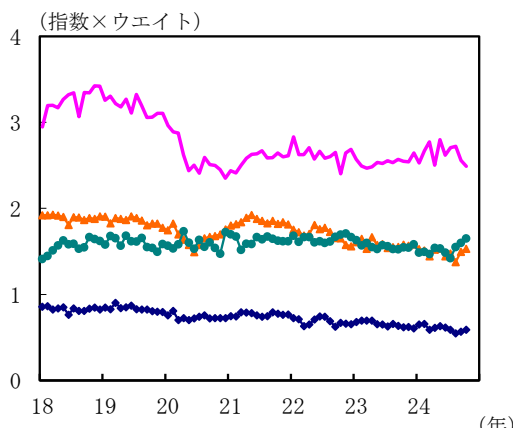
- 集積回路 (IC)
- 電子デバイス
- 電子部品
- 電子回路

輸送機械



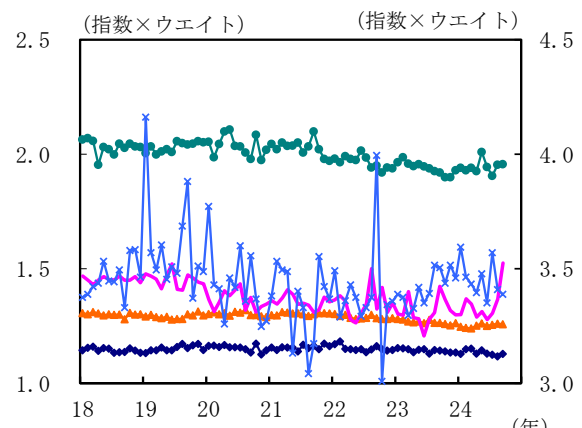
- トラック
- 船舶・同機関
- 乗用車 (右軸)
- 車体・自動車部品 (右軸)

化学



- 石油化学系基礎製品
- プラスチック
- 洗剤・界面活性剤
- 化粧品

食料品・たばこ工業



- 肉加工品
- 乳製品
- パン・菓子
- 清涼飲料
- 酒類 (右軸)

(注) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。
 (出所) 経済産業省統計より大和総研作成